



医療法人社団萌気会
在宅療養支援診療所(二日町)
在宅療養支援有床診療所(浦佐)

7

Vol. 374
2023/7.15

もえぎ

米山正樹 さん書

こども園祖父母七夕お楽しみ会



こども園 祖父母七夕お楽しみ会
撮影地:浦佐認定こども園
撮影者:こども園職員



第5回日本在宅医療連合学会
全国大会in新潟での登壇 2
安心外来・安心往診の根拠(3)一人の患者から、街全体がわかる
／居宅介護支援事業所ってなに? 3
黒岩卓夫一代記 4
通所リハビリセンター浦佐10周年記念式典
／小規模多機能居宅介護「たもんの郷」3周年記念式典 .. 5
MMOOEEGGIIアスリートクラブ活動報告／安心コラム 6
脱炭素社会実現に向けた萌気会の取組 7
事業所紹介／うちの利用者さん／編集後記 8



第5回日本在宅医療連合学会 全国大会in新潟での登壇

萌気会 理事長
萌気園浦佐診療所 院長 黒岩 巖志



6月23日～25日の3日間、新潟市朱鷺メッセで在宅医療関係最大規模の全国学会が開催された。私は、『在宅緩和ケアの質を高めるために学会ができること』がテーマのシンポジウムに登壇した。新潟開催ということで地元代表として登壇の機会を頂いた。

シンポジウムを仕切る座長はお二人。一人は、このシンポジウムの企画者、永寿総合病院がん診療支援・緩和ケアセンター長、廣橋猛先生。もう一人は、栃木県のつるかめ診療所医師、2021年に公開された映画『いのちの停車場』の医療アドバイザーを担い女優としても出演された鶴岡優子先生。

がんによる痛みや心不全による呼吸苦など、何らかの苦痛を抱えている患者が、人生の最期を住み慣れた自宅で過ごしたいと希望した場合、在宅でいかに苦痛を緩和できるか？がとても大切である。企画者である廣橋先生は『過去の遺族からの調査では、在宅緩和ケアの質は、緩和ケア病棟に匹敵すると評価されている一方で、一部の遺族からは、『自宅で苦しみながら亡くなった』『自宅では苦痛緩和できず病院へ救急搬送され亡くなった』という声も聞かれる。』と述べた。

私は、在宅緩和ケアの質を高めるために大切な3つのことについて述べた。

- 1、**多職種教育**：2016年から萌気会の医師、看護師、リハビリ職、栄養士、ケアマネと門前調剤薬局の薬剤師とで毎月の緩和ケア勉強会と症例の振り返りを行った。多職種で勉強することで在宅緩和ケアの質は向上したと自負している。
- 2、**ICTによる多職種連携**：がん終末期は症状が日々変化する。今は、インターネットにより24時間いつでも患者情報のやり取りが可能であり、急な病状変化に対しても迅速な対処が可能となった。
- 3、**病院 - 在宅の相互理解、連携強化**：萌気会で診療しているがん患者の約半数は病院からの紹介患者である。がん終末期患者は病勢が急に悪くなることが多いため『最期を自宅で…』と希望したとしても在宅移行のタイミングを逃し病院で亡くなってしまう方もいる。適時、迅速な在宅移行のためには、病院側と在宅側の実情をお互いが理解しあうことと、進行する前から病院主治医と診療所主治医が連携することが大切である。

このシンポジウムはこの学会で最も広い会場で行われたのだが、会場を埋め尽くすほどの参加者が参集してくれて、参加者から多くの質問があり大変盛り上がった。終了後も時間内に質問できなかった方が私の所に数人来てくれた。



写真右：左から高橋美佳子さん（訪問看護ステーションにいがた所長）・鶴岡優子先生・廣橋猛先生・茅根義和先生（大森赤十字病院訪問診療科部長）・柏木秀行先生（飯塚病院、連携医療・緩和ケア科部長）



安心外来・安心往診の根拠 (3) 一人の患者から、街全体がわかる



萌気会 会長・相談役
黒岩 卓夫

Mさんは浦佐の街に一人暮らしで96歳。リハビリなど介護保険は利用しているが、自立している。話もでき気持ちも分かり合える。

昭和20年。戦争に負けた年、長岡から嫁に来た。戦時中名古屋の軍需工場で働き、結婚など考えたことはなかった。結婚の話は7口あった。いくつか親が断った。一人は佐渡で学校の先生、交通不便でダメ。一人はお医者さん、私が我が儘だからと断った。残ったのがここ。熱心に何度か来てくれて、我が儘な子でも大丈夫だろうと。大地主でお金ある、家から近いで決まった。敗戦で地主は没落。戦前は芸者4人かかえていて貧乏に。

M家は地域で最大のわかさ屋から婿迎えしている。Mさんの巻35件余の大本家でお金ないのに礼節にかかり、付き合いも大変だった。しかし父が毎月貯めてくれた結婚持参金、皆がびっくりするほどの金額だった。それでまかなった。4年後に同居。寝たきりの姑、舅の面倒。主人も入院。父が亡くなった時も行けなかった。けど舅も姑も亡くなる時手を合わせてくれた。面倒見たいかがあった。今は子や孫に恵まれ、とてもよい家族になった。長男が最近急死したが残った家族は健在。いつも畳に手をつけて「先生ありがとうございました。先生のおかげでここまで生きてきました」。こちらこそ頭を深く下げる。私がこの土地にきて50余年たち、50余年ずっと私のところに来てくれている！「こちらこそ」と両手を強く握り、「また参ります」と、いつも玄関まで見送ってくれる。

Mさん一人でこの街全体の間人模様がわかってしまう。



居宅介護支援事業所ってなに？

萌気園居宅介護支援事業所
所長・管理者 佐藤 太

「居宅介護支援事業所」という名を一般の方にはあまり馴染みがないかと思いますが、居宅介護支援事業所とはケアマネジャーの事業所となります。

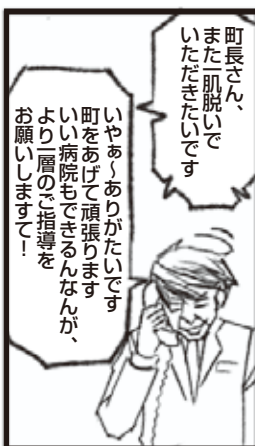
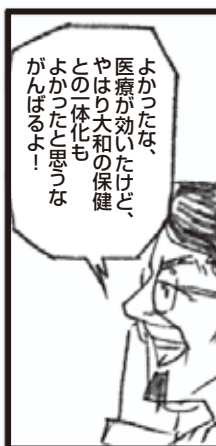
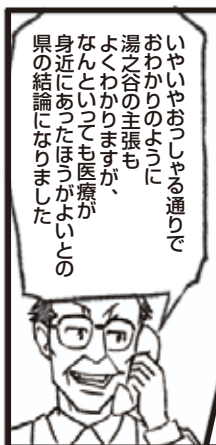
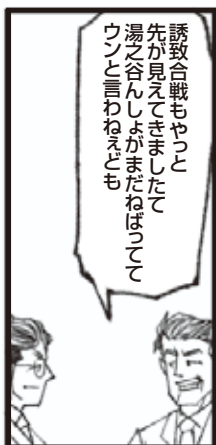
一般的にケアマネジャーと呼ばれていますが、正式には「介護支援専門員」といいます。

私たちの仕事は、「デイサービスに行ってみたい」などサービスを使いたい相談や、「最近身体の動きが悪くなってきた」とか「退院後も家で暮らせるようにしたい」など困り事を何とかしたい相談の連絡から始まる事がほとんどです。そしてその相談内容をもとに助言をしたり、サービスを提案したりして、その方に合った介護サービスを受けられるよう介護サービス事業所などと連携を取りながらサービスを調整しスタートさせていきます。

「介護サービスを使ってみたいけど、どうしたらいいのかわからない」など、介護について何か聞いてみたい事や相談したい事がある時は、ぜひご連絡をください。よろしく願いいたします。



第32話
特養「八色園」
建設を誘致



特養「八色園」は昭和51年12月オープン。県では公立2つ目。3つ目からは全て社会福祉法人立になった。「八色園」で定員100。「いや100人の高齢者を同じ屋根でケアするとは、一口では言えない」「迫力があるな!」八色園を先陣として次々とこの郡にも3つできた。民間病院も2つ。明治以来大戦について大きな波がやってきた。福祉の景色も大きく変わった。

10周年記念式典

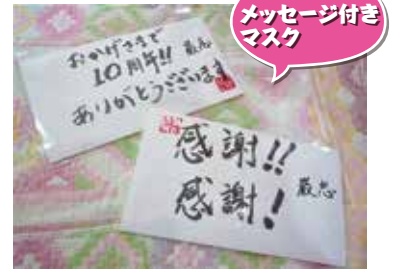
通所リハビリセンター浦佐

6/1にリハビリセンター浦佐開設10周年記念式典を開催させていただきました。

10年継続の利用者さんへの感謝状表彰、黒岩卓夫会長、巖志理事長からの祝辞の放映、そして職員からの出し物(選抜メンバーによるペヤング早食い二人羽織り)では利用者の皆さんに大変喜んで頂きました。利用者の皆様には記念品として巖志理事長直筆メッセージ入り、島村所長手作りハンコ付の特製マスクをプレゼントしました。

他に10年分の写真をスライドショーにまとめたものを1週間放映させていただき、今と10年前を比べて利用者の皆さん、職員共に盛り上がりました。

10年を迎えたりハビリセンターはお出かけリハビリの再開、また新たな取り組みに向けて準備を進めております。行ってみたい!と思われた方、いつでも見学お待ちしております。



3周年記念式典

小規模多機能居宅介護「たもんの郷」

たもんの郷は6月2日に3周年を迎えることができました。利用者さんには毎日たくさんの元気を分けていただきながら、職員も楽しい雰囲気の中で過ごすことができます。

お昼ご飯は、3周年記念特製手作りお弁当をご用意いたしました。午後には、『雪月華』の中島克さん、東島宮子さんによる鉄製スコップ三味線の演奏、みのりの会(外角洋子さん、種村巳代子さん、中嶋ミチ子さん)による踊りを披露いただきました。利用者さんも喜ばれていたようで、明るく和やかな雰囲気の中で3周年をお祝いすることができました。

これからも地域のニーズにお応えしていけるよう精進し、皆様のお役に立てる施設であり続けられるように取り組んで参りますので、今後ともたもんの郷をよろしくお願いたします。



MOEGIアスリートクラブ活動報告

この度アスリートクラブとして、FC越後妻有の高橋咲希選手のサポートを行ったことを報告します。私のトレーナー仲間から「前十字靭帯損傷後のリハビリで、脚の筋力を測ってほしい」との依頼を受け、二つ返事で快諾しました。

アスリートクラブでは高橋選手が不安なく試合に挑めるよう、今後も微力ながらサポートしていきます。またアスリートクラブはスポーツに携わる方々を全力で応援しております！

MOEGIアスリートクラブ(リハビリセンター浦佐)

山田 春樹



Photo by Nakamura Osamu

高橋選手より

FC越後妻有は十日町市・津南町を拠点に、「大地の芸術祭」の運営や農業をしながらサッカーをプレーしているチームです。私は加入5年目ですが、殆どの期間を怪我とリハビリで過ごしてきました。今年の春からはもえぎ園さんで筋力測定をさせていただいております。チームの拠点施設からも通いやすく、定期的に自分の状態を確認できるため、よりサッカーに集中できるようになりました。「今年こそは!」と意気込んでいるので、日々のトレーニングや筋力測定の結果を試合で発揮できたらと思っています。

安心コラム

千児観音を思い出そう

皆さん、2021年6月に企画された「高屋肖哲の千児観音チャリティ美術展」を思い出して下さい。実はこの6月10.11日新潟市大栄寺で「日本仏教看護・ビハラー学会」第19回新潟大会が開催されました。日本で真正面から仏教を取り上げ、僧侶を仲間にした医療学会はここだけです。

登壇する方々も半分以上が僧侶や仏教を精神の糧として活躍する、医師、看護師、臨床仏教師たちでした。「アウトリーチする僧侶たち」のシンポも行われました。

しかし以前私たち(萌気会、桐鈴会、普光寺、池田記念美術館のコラボレーション)が企画した『不幸な子や母の願いと祈りから生れた』千児観音は、子ども食堂、みんなのお寺冷蔵庫などの活動と発展し、在宅医療で仏教の理念や社会活動をテーマにした発表と比べても深いものがあり、誇れるものと確信しました。

改めて皆さんと研鑽し、次の企画もできればと思います。



Dr. T. Kuroiwa

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

脱炭素社会実現に向けた萌気会の取組 EV車両導入

事務局 田中 伊織



日本政府は、2050年までに脱炭素社会を目指すことを宣言しています。脱炭素社会とは、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量のうち、人間の活動によるものを「実質ゼロ」にする社会のことです。また、同じ意味を持つ言葉として「カーボンニュートラル」としても表現されています。

従来の自動車(ガソリン車)は、国内のCO2排出量の16%を占めているとされています。そのため、電気自動車に切り替えることで、CO2排出量を大幅に削減することができます。

また、電気自動車の普及と再生可能エネルギーへの転換で4つのSDGs目標に貢献できると考えます。

電気自動車が普及し、再生可能エネルギーへの転換が実現するならば、SDGs目標7の「エネルギーをクリーンにそしてみんなに」やSDGs目標13の「気候変動に具体的な対策を」の達成へと大きく貢献することができます。太陽光や風力発電、水力発電などの再生可能エネルギーへの転換は、温室効果ガスの排出を実質ゼロにする脱炭素社会の実現も夢ではありません。

また、脱炭素社会は人類が抱える気候変動という大きな課題を解決へと導くことでしょう。電気自動車が普及すれば、ガソリン車から出る排気ガスが無くなり、空気もきれいになります。また、災害時には電気を送電する蓄電池としても機能しBCP(事業継続計画)の停電時の対応に備えることができ、萌気会ではコム・ソフィ&ナースに電気を供給することができます。そうすると、SDGs目標11「住み続けられるまちづくりを」の達成にもつながります。さらに、充電インフラの充実は、SDGs目標9「産業と技術革新の基盤をつくろう」にも関わります。このように、電気自動車の普及は未来を良くするうえでも欠かせない取り組みであるといえます。しかし、これらの達成にはまだまだ課題と向き合わなければなりません。

萌気会では巡回車を走行中の環境負荷が少ないEV車両へ順次入替を行い脱炭素社会実現に向けた取り組みを行って行きます。

事業所紹介

萌気園二日町診療所「曼陀羅華」

コロナが第5類になり、徐々に世の中がコロナ流行前の日常に戻りつつある中、曼陀羅華でも利用者さんと外出する機会が増えてきました。

6月には南魚沼市の市民会館で行われた芸能フェスティバルに職員付き添いで観覧に行き、様々な踊りや演奏を観てきました。

「あの人知っている!」とお知り合いの方を見つけ嬉しそうにされている利用者さんや「私もあんな時期があったのよ。」と笑いながら追想される利用者さん等反応は様々でしたが、日常ではあまり経験することのない時間を過ごされ喜んでいただけただけの様子でしたので、職員一同も嬉しく感じた一日でした。



うちの利用者さん

萌気園大和通所介護 「地蔵の湯」

満州の奉天で生まれて16歳まで過ごされていたそうです。戦争でご自身が体験されてきたことをお話ししてください。

いつも明るくてお話が大好きな佐藤さんはカラオケがとても大好きで地蔵の湯でも歌ってくれます。

「地蔵の湯は温泉が気持ちよくて、ごはんがおいしくて、楽しい所だよ」と毎回おっしゃってくださいます。

これからも、お元気で過ごしてくださいね。

6月20、21日の2日間、ボランティアの方々が
大正琴とバンドの生演奏を披露してくださいました!!



佐藤 靖夫様

もえぎ夏祭り

8/27(日)11時～
浦佐診療所駐車場

【出店】
やきそば・やきとり・その他
キッチンカーも出店予定



編集後記

小規模多機能居宅介護 たもんの郷
小幡 桃香

梅雨の季節になり、ムシムシする日が続いていますね。2023年も、もう半年を切りました。今年はコロナウイルス感染予防の規制が少しずつ緩和され始めていますが、第9波が始まっているというニュースを見ました。

これからも、引き続きできる限りの感染対策を行いながら、利用者さんに喜んでいただけるような行事や催しを安全に行っていけるように取り組んでいきたいと思ひます。

